

様式第3号（第4条関係）

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

令和5年度 第1回丹波篠山市史編さん委員会、第2回通史編専門委員会

2 開催日時

令和5年11月26日（日曜日）午後1時40分から午後3時40分まで

*傍聴の受付時間（午後1時15分から午後1時35分まで）

3 開催場所

丹波篠山市立中央図書館 創作活動室

4 会議に出席した者の氏名（敬称略）

(1) 委員 今井 進、奥村 弘、池田 正男、市沢 哲、大江 篤、堀井 宏之、
古市 晃、藪田 貫

（欠席）加藤 善朗、清野 未恵子

(2) 執行機関 小林 康弘、小畠 理三、成田 雅俊、植木 友

(3) その他 松本 充弘

5 傍聴人の数

0人

6 議題及び会議の公開・非公開の別

(1) 令和5年度事業の進捗状況等について 公開

(2) 令和5年度専門部会の進捗状況等について 公開

(3) 地域編編さんの進捗状況等について 公開

(4) 専門部会間の調整・協議事項について 公開

(5) 令和6年度事業計画（案）について 公開

(6) 協力員（考古編専門部会）の指名について 公開

7 非公開の理由

—

8 審議の概要

(1) 開会

(2) あいさつ

今井進 編さん委員会委員長あいさつ
奥村弘 通史編専門委員会委員長あいさつ

(3) 報告事項

ア 令和5年度事業の進捗状況等について

- ・事務局・松本特命助教より、令和5年度事業の進捗状況を報告。

イ 令和5年度専門部会の進捗状況等について

- ・各部会長から部会の進捗状況等を報告。

【考古編専門部会】池田部会長から報告

- ・部会は3回開催し、5月19日の第1回部会では歴史資料編刊行に向けて、今年度は既存発掘調査報告書等の整理や主要遺跡の抽出など6つの課題をあげて取組を進めることを確認した。
- ・7月27日の第2回部会では、主要遺跡の抽出について協議した。周知の埋蔵文化財包蔵地一覧をベースに、1,507遺跡の中から抽出を進めることにした。抽出にあたっては4つの掲載遺跡選考基準を設け、第3回部会までに各委員で選考を進めることにした。
- ・10月20日の第3回部会では、選考の結果、1,507遺跡から83遺跡を抽出した。課題としては、平成20年頃以降に県教委が発掘した遺跡や市内に80ほどある中世城館、旧篠山町・旧今田町の遺跡については、専門家や当時の担当者を協力員に指名して選考を進める必要があるとなった。
- ・歴史資料編の構成として、遺跡の掲載順や複合遺跡の掲載時代、遺跡名、1頁あたりの文字数、目次・レイアウトなどについて検討し、アウトラインを作った。
- ・今後の課題としては、掲載遺跡に係る執筆者等の検討や市教委所蔵遺物・図面・写真等の保管場所の確認・調査がある。

【古代編専門部会】古市部会長から報告

- ・5月27～28日に第1回部会を開催し、歴史資料編に関する協議を行った。その他、市内の西木之部、大山周辺の巡検を行った。
- ・古代編では歴史資料編・通史編とも旧多紀郡のみではなく、丹後も含めた旧丹波国を対象に進めることとしており、それに沿って市外巡検にも取り組むとして、8月7～8日に旧丹波国桑田郡の亀岡市・南丹市の巡検を行っ

た。

- 10月28～29日に第2回部会を開催し、第1回部会に引き続き歴史資料編に関する協議を行った。その他、今田方面の巡検を行い、住吉社などの確認を行った。
- 2回にわたって歴史資料編をどうするか議論を進めた。現在史料採集として丹波・丹後に関する物を集める作業を進めている。兵庫県史だけでは足りないため、京都府内の丹波・丹後の史料として亀岡市史などの自治体史から抽出する作業を進めている。
- 中世部会では史料の抽出が進んでいると聞いているが、歴史資料編1巻の分量がどれくらいになるのかについては、古代部会の史料の抽出が終わらないと固まらないため、抽出作業のスピードを上げ、次回3月の部会で大まかな点数が出るようにしたいと考えている。
- 12月には第2回市外巡検として丹後方面を予定している。

【中世編専門部会】市澤部会長から報告

- 6月と11月に部会を開催し、6月は大山、11月は今田方面の巡検も行った。2回の部会を通じて3点ほど報告したい。
- 一つ目は、歴史資料編に向けた史料の収集状況だが、県史などをベースに概数を出そうとしている。現時点で大山荘関係で約1,000点、他で1,000点弱あり、史料カード化の作業を進めている。
- 県下の中世史料としては飛び抜けて多いということが分かってきた。
- 2,000点もの史料をどのように扱うかについては、頭が痛い問題である。古代部会からも報告があったが、史料の概数がもう少し正確に分からないと、どのように収めたら良いか分からないので、来年度の第1回部会ぐらいにより正確な点数をつかめるようにするための作業を進めることになった。
- 二つ目は、歴史資料編のイメージだが、これほどの点数を収めるには、現計画の巻数で大丈夫なのかという不安な面がある。中世部会の希望としては、最初から例えば大山荘の史料は全部載っていないようなものは作りたくない。現時点で分かっている丹波篠山市域の中世史料はほぼほぼ載っているという前提のしっかりとした資料集を作っていきたい。落とす際は落としていくことを明示する必要があるが、そうしたことはどうにかして避けたいという議論がされた。
- 三つ目は、11月に今田の巡検を行ったが、かつて今田町史編さん時などに撮影された史料の写真の精度がどの程度か確認する必要があるとなった。必要に応じてアップデートが必要になると考えている。
- 今田町本荘の住吉社にある大般若経は、奥書が平安期のもので16点ある。

600 巻あるが、現在は本荘に 200 巻、加東市に 200 巻、西脇市に 200 巻と分かれている。それぞれの自治体でどれぐらいの調査がされているのか確認が必要で、奥書があれば後世に残せるレベルの写真撮影が必要だろうとなった。この經典の分散が加東や西脇に延びているということと関連して、和田寺は清水寺、朝光寺と修験で三山の関係を持っているという。和田寺と清水寺の関係はよく知られているが、かなり播磨との関係が強い。義経が通ったという三草山に至る道沿いに、恐らく天台の一つの信仰圏のようなものがあって、古代でも注目している住吉との関係も含めて考えていくような問題が少しずつ分かってきた。これまで中世部会では、丹波篠山市の北部や中央部に關心を向けてきたが、南部については播磨との関係を視野に入れざるを得ない。三木市の吉川の方でも天台の修験が盛んである。三岳修験のあり方とは違う修験のあり方が播磨との関係で市域にあるということが分かってきたように思う。

- ・大般若経などの取り扱いについては、文化財編専門部会と協力しながら取り組みたいと考えている。

【近世編専門部会】藪田部会長から報告

- ・5 月から活動を始め、8 月には古文書調査合宿ということで、学生 8 名、地域資料整理サポーター 9 名の参加を得て、2 日間開催した。この調査により藩政日記 75 箱 594 点中、23 箱 178 点の目録作成完了、藩政日記の約 30%、藩政史料全体では 3,200 点の約 5%の整理が終わったことになる。
- ・私としては市史を作ることと青山歴史村の史料を整理すること、という 2 つの事業だと捉えており、そうした考えは近世部会で共有している。本を作るという問題と青山歴史村の史料を大名文書として全国の人たちに活用してもらえようにするということはスケジュール的にはなかなか上手くいかないかもしれないが、この機会を逃せば実施できないと思われる。方法を考えながら継続していきたい。
- ・古文書調査合宿では、学生が非常に熱心に喜んで取り組んでくれた。丹波篠山市史を通じて若い研究者が育つということも、とても大事なことで継続したいと考えている。今回は 1 泊 2 日だったが、次回は 2 泊 3 日にしてさらに充実した成果が上げられるようにしたい。
- ・市民も参加しての取組であり、その成果を市民に広くお知らせするため、報告会も開催する。今回は 12 月 17 日に初めての部会報告会を開催する。この夏の集中合宿と 12 月の調査報告会はしばらくの間、続けていきたいと考えている。
- ・歴史資料編と通史編の中身については、部会で議論をしていきたい。歴史

資料編で議論をすると調査があまり進んでいない段階では中々議論できない。まず通史編を考えた上で通史編を念頭に置きながら史料調査を進めるとすれば、歴史資料編の構成ができるのではないかと考えている。ただし出版計画として通史編を先に出すということではなく、部会で通史編を構成しながら史料調査を進めていきたいということで、刊行計画の変更は意図していない。

- ・中世部会から出ていた中近世の境をどうするかということで秀吉期を近世に入れるということだが、例えばそうすると秀吉期のものは市域になかなかないので、秀吉文書に通じた人を別途入れる必要が出てくる。そういう議論を深めるためにも、通史編の議論を進めていきたいと考えている。12月の部会では案を作り提案したいと考えている。本格的には6年度から通史編の議論を進め、中身とスタッフ、取り上げる史料の問題に関することについて先行して取り組みたい。

【近現代編専門部会】奥村部会長から報告

- ・少し遅れているが、1月に市内巡検を予定している。
- ・全体の進め方などについては委員等と協議を進めている。近現代の史料は膨大な量であり、全てを歴史資料編に入れることは不可能である。三木や三田でも取り組んだが、まずは高校生が読んで分かる内容で、丹波篠山や日本の近現代でも大事な史料を選出して入れる方法になる。
- ・通史編の全体の構成も考えながら歴史資料編を進めていきたい。
- ・歴史資料編に掲載できなかった膨大な史料をどうするかという課題がある。近世の史料も同じだと思うが、それをどのように公開していくか、利用できるようにしていくか。これらについてはデジタル公開を検討していかなければならないと考えている。デジタルで公開していくシステムを市史でどうしていくかについて、これまで近現代ではほとんど事例がないが、近世部会とも相談しながら考えていかなければならない。公開と閲覧の体制をどうしていくかも含めて考えていきたい。

【文化財編専門部会】事務局から報告

- ・3回の部会を開催し、主に目次案や執筆者などを検討した。
- ・現在は調査や執筆作業を進めている。
- ・建築や陶芸については、今後協力員予定者と調整を行う。
- ・考古資料・史跡については考古編に、天然記念物については自然環境編に担当いただくため、文化財編では扱わない。
- ・未指定文化財については、指定文化財候補や特徴的なものを取り扱う。

(委員) 会議録を見ると、地域編とどのように関わるのかという議論がされているので、そのあたりについては部会長と相談させていただきたいと思う。

【自然環境編専門部会】事務局から報告

- ・オンラインで2回部会が開催されている。9月の部会では、令和7年度刊行に向けてのスケジュールの確認や協力員を交えた協議を行うことが検討された。
- ・10月の部会では協力員も参加の上開催し、執筆スケジュールなどの協議がされた。令和7年度末の刊行で進めているが、原稿〆切を6年10月に設定することが確認された。1人あたりの頁数は10～30頁にすることや本に掲載できない動植物のリストはホームページの活用を検討するなどといったことも協議された。

ウ 地域編編さんの進捗状況等について

- ・事務局より地域編編さんの進捗状況を報告。

(委員) 地域編については定型のものがないので、どのような仕組み作りをするかなど検討を重ねてきた。これまで色々な形で歴史を活かしてまちづくりを進めている団体活動や文献などを参考にしながら、このような形になった。シンポジウムでは他市を含めて様々な市民による歴史編さんについて第一部で話しを考えている。第二部のトークセッションでは、市内の兵庫県無形民俗文化財ヘリテージマネージャー1期生に登壇してもらい、様々な計画を検討されたり、活動されたりしているので、色々な話しが聞けると考えている。また次の世代を担う若い人たちということで篠山鳳鳴高校のインターアクト部の生徒2名にも登壇いただく。Z世代にとって丹波篠山の歴史文化資産の何が推しなのかということも聞きながら、若い人たちの意見も反映した地域編にできればと考えている。

(6) 協議事項

ア 専門部会間の調整・協議事項について

(委員) 考古部会で報告のあった中世城館について、中世部会はどうか。

(委員) 考古部会の成果を通史編で活用させていただく予定。

(委員) 考古と古代はどうか。

(委員) 古代部会の調査が進んだ段階で考古部会と相談していきたい。

(委員) 考古になるかどうかだが、戦争遺跡など近代の遺跡をどう捉えるか。

(委員長) 戦争遺跡については、まだ市内に残っている。何とか後世に伝えていきたいという願いはある。珪石関係として鉾山や篠山線、朝鮮人労働者などが働

いていた場所などもある。過去には市人権同和教育研究協議会が『デカンショのまちのアリラン』という冊子にまとめている。そうしたものをどこで取り上げるのか。近現代編で取り上げるかどうか。

(委員) 考古に関係することで、近世でいうと篠山城下町について、史跡指定や重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、地上の建物などはよく調査されていると思うが、地下遺構の調査事例はあるのか。

(委員) 多数ある。

(委員) 調査のリストのようなものはあるか。

(委員) 発掘調査報告書や実績報告書などにまとめられている。城内では大書院跡などの調査、城下では開発などに伴う調査がされている。城下は確認調査が多い。そうした調査のどれを歴史資料編に載せるかについては、旧町の担当者に判断してもらおうと考えている。

(委員) 調査主体は市か、県か。

(委員) ほとんどが市(町)である。先ほど話しに出た戦争遺跡については、地域編で取り上げてもらうのがよいのではないか。

(委員) 全国的には考古で取り上げる事例が多くなっている。または文化遺産でもある。こうしたことは文化財保護審議会での議論も必要かもしれない。

(委員) 市内では発掘した事例がない。

(事務局) 例えば連隊の跡地では建物の一部が残っていたりするが、発掘調査を行ったことはない。

(委員) 鉄道関係もある。

(委員長) 篠山線関係で一部残っているものもあるが、駅の跡地などは再開発されて残っていない。

(事務局) 鉄道関係では文献資料の方が残っており、旧多紀支所に保管されていたものがある。

(委員長) 軽便鉄道関係の資料もあるか。

(事務局) 国立公文書館に関する資料が残っていると思う。

(委員) 近現代の文化遺産は残りにくく、消えていくことが多い。意識して残していくことが大事だと思う。考古か文化財かということはあるかもしれないが、建物プラス遺構を調査したものを何らかの形で市史に反映できれば良いと考えている。文献の方は近現代部会で調査し、他の部会と情報共有しながら進めていきたい。

(委員) 戦争遺跡の中には墓碑の問題もある。それはどこで扱うか。地域編で取り扱うのが一番密度は濃いと思う。かなり時間のかかるものであるが、大事なものである。

(委員) 忠魂碑もある。

- (委員長) 近世の金石文などはどうか。
- (委員) 道に関わるものや墓碑などがある。建築の方が熱心に取り組まれていることがあり、建造物編があればそこで取り上げることもあるが、丹波篠山市史にはないので、文化財編で取り上げるか、地域編で取り上げるかだと思う。密度の面からいえば地域編が良いのではないかと考える。
- (委員) 但馬の方では近代墓碑の調査を学校教育の中で子ども達が行っている事例がある。地域の墓碑を調べて、何年くらいにどこで戦死する人が増えるかなど統計を取ったりしている。そういうのが近いように思う。
- (委員) 他には惣墓の問題がある。惣墓の場合は差別とも関わってくる。寺院にある墓碑なのか、惣墓にある墓碑なのかなど墓の成り立ちとも関わってくる。
- (委員長) 両墓制が残っているのは丹波篠山周辺だけか。なくなりつつあるが、特異な存在と聞いたことがある。
- (委員) 少なくなっているが、他の地域でも残っている。かつての民俗での墓地調査では、墓石全部を調査して、形態分類をかけて、図面に落とししていくということを行ったことがあるが、近年では個人情報の問題が出てから全く扱えなくなってきた。墓地形態だけを調べて書くということは行っている。
- (委員) 道に関わる建造物、碑などは、過去に歴史の道で調査をしていると思うので、そうしたデータを拾い上げてみてはどうかと思う。やはり地域編で取り組んでもらうのが一番よいと思う。地域に詳しい方々や活動している方々の視点や意見というのはとても大事だと思う。他の分野にも活用できると思う。
- (委員長) 消えつつあり、今のうちに取り組む必要がある。
- (委員) 70 連隊遺跡群など。
- (委員) 今後の要研究課題としたい。
- (委員長) その他何かあるか。
- (委員) 考古で刻書・墨書の須恵器や土師器があれば、見せてもらいたい。
- (委員) かなり限定されるがある。
- (委員) またお願いします。

イ 執筆要領（案）について

- ・事務局より執筆要領（案）について説明。

- (委員) 10 の時期・時代区分について、平成時代・令和時代と現代編で区切るようなことはしないと思うので削除し、昭和時代までに修正をお願いします。
- (事務局) 昭和までに修正する。
- (委員長) その他、意見等ないか。なければ、先ほどの時代区分のところを修正した執筆要領で進めるということをお願いします。今後実際に進めていくなかで再度検討すべきことなどが出来れば、委員会で協議するというようお願い

する。

(異議を唱えるもの無し。一部修正の上、承認。)

ウ 令和6年度事業計画(案)について

・事務局より事業計画(案)について説明。

(委員長)大きく変わるのが、図書館にある事務局を来年度から西紀支所に移転して、市史編さんに取り組むということだと思う。会議等はどこで開催するのか。

(事務局)西紀支所の会議室を利用することを予定している。

(委員)刊行計画を見ると令和7年度に文化財編・自然環境編を刊行することになっているが、印刷業者の選定は来年度に行うのか。

(事務局)令和7年度当初で考えている。6年度はそれに向けての準備を進める予定である。

(委員)地域編の地域部会はいつ頃に立ち上げ予定か。

(事務局)今年度中に調整し、来年度早々に立ち上げられるように準備をしたい。

(委員長)多紀、城東から始めるということによかったか。

(事務局)そうである。

(オブザーバー)個人的に気になっている点がある。西紀支所への移転に伴って、この図書館に保管している丹南町史編さん資料も移動することになることが気にかかっている。旧丹南町の中央図書館にある丹南町史編さん資料がある意味合いでもって、サポーターのつながりもできた。これが西紀支所に移動したときにサポーターがどのように思われるかが少し気になる。資料の一体的な保管のことを考えると西紀支所に移動させた方が良いというのは現実的な問題であるが、丹南町史編さん資料だけ特殊なものではないかと思っている。

(事務局)現在、地域資料整理サポーターに協力をいただきながら進めている。最初は図書館にある未整理の地域資料について、市民の協力を得て整理を進めようということで神戸大に支援をいただきながらサポーターを立ち上げ、最初に楽翁文書、次に丹南町史編さん資料、そして現在は市全域の市史編さん資料の整理をお世話になっている。来年度から拠点を西紀支所へ移転ということになり、資料を一体的に保存し、調査や活用を進める必要があることから、丹南町史編さん資料も含めて移動させる計画となっている。旧町の資料を旧町にある施設に保管しておくというのも活用などの面から困難であり、編さん期間は他の資料と同じところに保管しておく必要があると思う。来年度からはそのような形をお願いしたいと思っている。編さん後にそうした資料をどこでどのように保管し、活用するかについては、今後編さん委員会で検討しなければならないと考えている。

(オブザーバー) 楽翁文書にしても丹南町史編さん資料にしても図書館の資料の整理としてサポーター活動が始まった経緯があるので、図書館で歴史資料を見てもらうのが良いのか、最終的に丹波篠山市史編さん資料として一体化させるのが適切かどうかということなども追々考える必要があるのではないかと思う。

(委員) 丹波篠山市は市域が広い。元々は村にある資料はその村で保存するという原則があった。段々とそうしたことが現実的に厳しくなっている中で、集約して集めることも必要だが、それと同時に利活用を図るという点では、地域コミュニティごとに扱うということも大事なことになるので、それをどう折り合いを付けていくのかということとは地域編の課題でもあるように思う。一箇所に集めたからそれで良いということではなく、今後全体として活用の仕方や保管の仕方、場合によっては支所で保管するのも一つの方法かと思うので、編さんと同時に考えていく必要があるのではないか。市も課題として捉えてもらい、市民にとって使いやすい形態とは、親しみやすい形態とはどのようなものなのかも考えながら編さんを進めていった方がよいと思う。

(オブザーバー) アクセスのしやすさという面では図書館は使いやすいと思う。

(委員長) 一つの課題として捉えて、今後委員会でも検討しながら進めていきたい。

(委員) 地域編の編さんについて、ミクロな地域史ということが書かれている。趣旨はよくわかるものの住民から見れば残したくないものもあると思う。それが地域編の中で書かれるとなるとどうか。そうしたことの表現の仕方については、神経質的に扱ってもらいたい。地域編が出ることによって広く知られてしまうことになる。表現の仕方について執筆者や担当者は気をつけてほしいと思う。

(委員長) このことについては、これまでも色々なところで議論されてきた。新たな差別などを生まないようにしっかりとしなければならぬ。地域編を進める際には注意しながら取り扱わなくてはならない。

エ 協力員（考古編専門部会）の指名について

・事務局より協力員3名の指名について説明。

(委員長) 協力員の指名について承認いただけるか。

(異議を唱えるもの無し。)

(委員長) 異議がないので原案のとおり指名する。

(7) 次回開催時期について

・令和6年3月10日に開催

(8)閉会

池田正男 通史編専門委員会副委員長あいさつ